

宇部労働基準監督署管内の労働災害発生状況

1 令和3年「業種別・署別・年別労働災害発生状況（令和3年6月末現在）」について

令和3年の6月末現在の労働災害発生件数は155件です。

この件数に新型コロナウイルス感染症に係る労働災害件数が53件含まれており、この53件を除くと102件となります。

この件数は、前年同時期から比べると18%増加と災害件数は多くなっており、（前月比-5%）

今年、災害が多い業種は「商業」24件、「建設業」22件、「製造業」20件となっており、これらの業種は前年比で災害がすべて増加しております（新型コロナウイルス感染症を除く。）。

先月は当署管内での新型コロナウイルス感染症の労働災害が4件計上され、今年累計53件となっており、今後デルタ株の流行も懸念されます。引き続き感染対策をしっかりと行った上で感染予防に努めていただければと思います。

また建設業の墜落・転落災害について、今後も発生を注意深く見ていく必要があると思われまますので、各事業場様におかれましては墜落制止用器具帯の着用、使用の徹底をお願い申し上げます。

2 STOP!熱中症クールワークキャンペーンについて

厚生労働省では、職場における熱中症予防対策を徹底するため、労働災害防止団体などと連携し、毎年5月から9月まで、「STOP!熱中症 クールワークキャンペーン」を実施しております。

2020年に全国で発生した熱中症は、死亡災害を含む休業4日以上で959人（うち死亡者数は22人）となっています。業種別にみると、全体の4割強が「建設業」と「製造業」で発生しています。入職直後や夏休み明けで熱順化が十分でないとみられる事例や、WBGT値を測定せず、WBGT基準値に応じた措置が講じられていなかった事例などが報告されています。

また、死亡者数は、「製造業」「建設業」「清掃・と畜業」の順に多く、被災者の救急搬送が遅れた事例も含まれています。

【全国の職場における熱中症死傷者数（2016年から2020年）】

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
職場における熱中症死傷者数(人)	462	544	1,178	829	959
上記のうち、死亡者数(人)	12	14	28	25	22